

## 増産著しい中国の金生産と増える消費量

2012/3/16

代表：五十嵐正樹

### 1. 世界一の生産量

(1) 中国各紙によると(2012/2/1)、2011年の金生産量は前年比5.9%増の約360トンと過去最高を更新し、生産量が世界一となった2007年以来5年連続で世界一を記録。最も生産量が多かった地域は山東省(中国の生産量の約25%)で、河南、広西、福建の各省、内モンゴル自治区が続き、同地域で総量の約60%を占める。中国黄金協会の関係者は「金の生産力を高めることは金融リスクへの対応能力を強化し、経済を安定させる上で重要である」と指摘。2010年の金生産量は340トン、需要量は正確さに欠けるが700トン、不足分の360トンは輸入ないしは在庫放出で賄われという。この需給アンバランスを象徴する動きとして、2010年1-10月の中国の金輸入量が209トンと、前年同期比480%の急増であった(上海金取引所筋)。

(2) 過去の金生産量の推移をみると、2007年は前年比12%増の276トンで、1905年から首位の座を守り続けた南アフリカ共和国は8%減の272トンで2位となり、102年ぶりに主役が交代した。この背景をみると、①経済成長を映して金消費の拡大が続く中国では山東省(全土の約25%を占める)や新疆ウイグル自治区の増産投資が活発であったこと、②南アなどから採掘技術を導入したことが主因として挙げられる。因みに、新中国成立時(1949年)の金生産量は4.5トン、1995年に初めて100トン、2003年は200トンを超えた。

### 2. 世界一の消費量

(1) 著名な金アナリストであるディモシー・グリーンは、「金-21世紀への展望」のなかで、中国人の“金選好”について、「中国人にとって金を意味するkamは長い間、富の象徴であり、価値の貯えの拠り所であった。金への信頼は中国の共産革命を経ても生きながらえた」と述べている。しかし、中国の厳しい金管理は1982年9月まで中国人民銀行が行っていたが、同年10月、金準備の増加、生活水準の向上などを理由に金装飾品の生産・販売を再開することになり、国民待望の“金解禁”を実施した。これを機に中国の改革・開放施策と相まって、多くの国民のなかで金ブームが再来した。将来の需要増に備えてか、1988年7月、國務院秘書長白美清は“中国は世界の新たな産金大国になる”ことを望んでいると表明している。

(2) 金ブームの事例を紹介すると、2010年12月、中国の“金都”山東省招遠市にある金専門の大型ショッピングセンターには、1日に1000人の来客があるという。この1年で金価格は1g300元(約3800円)から350元(約4400円)に上昇したにもかかわらず、購買意欲が強いため当局は空前の金ブームを観光につなげようと、2009年5月、1億6000万元を投じ、当地に金をテーマにした博物館を開設した。この盛況の背景には、国民の所得水準向上による需要増に加え、不動産は怖い、金は安心と、投資目的で金を購入する動きが強まっていることにある。2012年の春節商戦で、日本の松坂屋銀座店では中国人観光客を当て込んで、557万円の金の急須などを揃えた。因みに2011年の世界の金需要は4067トン。2012年には需要が堅調な中国、インドは伸び悩み、初めて中国が世界最大の金需要国になりそうである(了)。